

－ステレオタイプが作用するもの－

つくりかえられる自分

わたしたちが他者に対して抱く期待が、現実のものになっていくという現象を自己成就予言といいます。

例えば、「女性は数学が苦手である」というステレオタイプが、女性の数学に対する苦手意識をつくりあげ、数学の得点が低くなるという現象が指摘されています。

さらに、遊びで血液型性格判断をしている人の性格が、その人の血液型のステレオタイプに近づいていくという現実もおこっています。

子どもたちに対してマイナスのステレオタイプを持って接することにより、その子がそのとおりになってしまふ恐れがあるのです。

強められる思い込み

人の記憶は曖昧なため、思い出す際に、自分自身が意味づけした内容に近い形で強調される傾向があります。

例えば、ある子どもに対して「生活態度が良い」というイメージが一旦形成されると、そのイメージに合致する情報のみが印象に残り、良いイメージが一層強調されるようになります。もし、その子どもがイメージと合致しない行動をとったとしても、「この子には、こんな部分もあるのか」などと例外扱いし、イメージの悪化にはつながらないという傾向が指摘されています。

差別をなくしていくために －ステレオタイプを少なくする－

ステレオタイプは、誰しものが少なからずもっています。それをなくそうとするのではなく、まず自分にもそのような傾向があると自覚することが必要です。

そして、日常生活の中で、次のようなことを心がけていくことがステレオタイプを少なくすることに結びついていくと言われています。



大分市人権フォトコンテストの作品

1. 批判的思考をすること

「昔からやっている…」 「みんながやっている…」 からといって同調していると、いわば思考停止状態になってしまいます。情報として知ったことを自分自身で本当のことなのか考え確かめていくことが大切です。

2. 多様性を認めること

自分に様々な面があるように、相手にも様々な面があるものです。一面だけを見て相手を判断するのではなく、いろんな視点から見て考えることが、相手への理解を深めることにつながります。

3. 想像力をはたらかせる

「一番伝えたいことは、一番言えないこと」という言葉があります。想像力をはたらかせ「もし自分だったら」と相手の立場になって考えることで、相手への接し方も見えてきます。そして、そのことがより良い人間関係づくりにつながっていくのです。